

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校北勢きらら学園）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○児童生徒一人ひとりが、快適に学び、確かな成長・発達を遂げ、それぞれの個性に応じた自立と社会参画が実現できるように支援する学校
		○特別支援教育の専門性の向上を図り、地域におけるセンターとしての機能を発揮できる学校
(2)	育みたい児童生徒像	○「なりたい自分」や「将来のあるべき姿」を思い描き、その実現に向けて、人とつながりながら学ぶことができています。 ○社会の一員として地域で生活するために必要な知識・技能を身につけることを意識して、学習活動を行うことができています。
	ありたい教職員像	○児童生徒・保護者の教育的ニーズや願いを把握したうえで、発達段階に応じた指導・支援ができています。 ○保護者や医療機関等と連携を図り、意見等を真摯に受け止める柔軟な心と思考を持つとともに、児童生徒の安全と健康を意識し、児童生徒の立場に立った指導・支援ができています。 ○校内研修や自主研修の場を通して、実践を積み重ね、肢体不自由教育に関する専門性を高めている。 ○同僚性の高い職場で、学び助け合いながら教育活動を行うことができています。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>&lt;児童生徒&gt; 安全で安心して楽しく学習できる環境の中で、わかる授業など教育活動の充実 卒業後の自立と社会参画に向けて、健康で主体的に活動できる力等の必要な知識・技能の習得</p> <p>&lt;保護者&gt; 安全な学習環境の中で、一人ひとりのニーズに応じた丁寧な指導・支援の実施 自己実現と社会参画につながる知識・技能を身につけ、個々の状況に応じた進路の保障</p> <p>&lt;地域&gt; 地域活動への積極的な参加による連携の強化と、地域の防災拠点としての役割</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>&lt;保護者&gt; 児童生徒一人ひとりを大切にしたい指導 家庭との信頼関係の構築</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 自立と社会参画に向けての指導・支援の充実と、保護者との連携、情報提供</p> <p>&lt;地域&gt; 地域活動への参加と施設設備の開放、避難施設としての受け入れ態勢の整備</p>	<p>&lt;保護者&gt; 教育活動への参画と連携・協力体制 自立と社会参画に向けた連携</p> <p>&lt;福祉・行政・医療関係機関&gt; 進路先の開拓及び支援と福祉施設や就労先への指導・支援、健康管理のアドバイス</p> <p>&lt;地域&gt; 教育活動への理解と協力 教育活動の場、交流教育の機会の提供</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でできなかった校外学習やプール、行事などについて引き続き検討を重ね、できるところから実施する。</li> <li>・肢体不自由教育の基礎・基本を大切にしたい研修等を実施することで、安全で安心な学校づくりを進めるとともに、実践事例の共有など教職員の専門性の向上を図る。</li> <li>・地域との連携も含めた、危機管理に関する訓練や会議等を実施する。</li> <li>・会議等の見直しも含め、業務や役割の分担等など、働き方の改善について引き続き取り組む。</li> <li>・本校の教育活動の充実を図るために、引き続き医療や福祉をはじめとした有識者、地域の方などに学校運営に参画していただく機会を積極的につくる。</li> </ul>	

(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの重度・重複化、多様化が進んでいることから、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育実践を行うため、医療や福祉などの関係機関との連携・協力を強化するとともに、肢体不自由教育に係る専門性及び授業力の向上が必要である。また、ICTを活用した授業の実践を進める必要がある。</li> <li>・自立と社会参画を目指して、卒業後の生活を見据えた教育活動を進めるとともに、コロナ禍において共生社会を実現するため交流及び共同学習の方法や内容を工夫する必要がある。</li> <li>・特別支援学校のセンター的機能を発揮するため、実践事例等の発信や研修の機会・指導・支援のノウハウの提供など、内容や方法を工夫しながら情報発信を進める必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンスへの意識を高め、互いの気づきを積極的に共有することにより、教職員一人ひとりが安全で安心して職務を遂行できる職場環境づくりを進める必要がある。</li> <li>・防災や感染症など教職員の危機管理への意識向上を図り、安全安心な学校運営を進める必要がある。</li> <li>・地域に開かれた学校づくりを進めるために、ホームページを活用した取組の紹介など、内容や方法を工夫して積極的に情報を発信する必要がある。</li> <li>・授業の準備や多様な会議の実施など、学校運営に係る内容や方法等を工夫して業務の精選を図り、教職員の多忙感を解消する必要がある。</li> </ul>

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践、ICTを活用した授業実践を進めるとともに、発達段階に応じて共に学び合うキャリア教育の視点を取り入れた教育内容の充実を図る。</li> <li>・教員の肢体不自由教育に係る専門性の向上を図り、実践事例や指導・支援のノウハウなどの情報を発信するなど、センター的機能の充実を図る。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療や福祉などの関係機関や地域と連携・協力し、児童生徒に安心安全な環境づくりを進めるとともに、防災機能の強化や情報管理、感染症対策など教職員の危機管理への意識向上を図る。</li> <li>・教員一人ひとりが、自分が持てる力を発揮し、互いに知識・技能を共有し合える関係づくりを進めるとともに、校務分掌や会議等を見直し、総勤務時間の縮減に取り組む。</li> <li>・信頼される学校であり続けるために、教職員がコンプライアンスを自分事として捉え、意識を高める取り組みを推進する。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
一人ひとりのニーズに応じた授業実践とキャリア教育の推進	<p>○肢体不自由教育に係る基礎知識・技能の定着と専門性の向上を図るとともに、共に学びあう関係づくりを意識した校内研修をとおして授業力の向上を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの小チーム(からだ・ICT活用・授業づくり・教材づくり・ステージづくり)研修会を実施</li> <li>・外部講師を招聘した授業研究と振り返り(年間2回)</li> <li>・摂食、機能訓練など基本的事項を踏まえた研修会の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小チーム研での学びをポスターにまとめ、報告会を実施</li> <li>・取組評価アンケートにより、成果が見られたと回答した教職員の割合:80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均して、80%の教員が小チーム研修に取り組むことができた。各チームでポスターを作成し報告会を実施し紀要に反映した。</li> <li>・職員のアンケートの集計結果は以下の通りである。</li> <li>□組織力が高まったか →非常に高まった27%・高まった60%</li> <li>□指導力は高まったか →非常に高まった14%・高まった65%</li> <li>□専門性は高まったか →非常に高まった14%・高まった63%</li> <li>・グルーピングの工夫や、専門性の向上のために取り組むべき課題がある。</li> </ul>	◎

<p>共生社会の実現に向けた交流及び共同学習の実施</p>	<p>○児童生徒・保護者のニーズを把握し、相手校と連携・協力して、コロナ禍においてできる交流及び共同学習の内容や方法を工夫する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手校と内容や方法についての情報交換を進め、新たな形での交流及び共同学習の実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな形での交流及び共同学習の実施:相手校の了解のもの随時実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居住地校交流では、希望する児童生徒 13 名が直接交流を 1 回実施した。(希望者のうち約 72%)</li> <li>・全学部で近隣の学校と、作品交流などの間接的な交流を実施した。交流するにあたり、きらら学園の交流教育の意義や目的を知ってもらうため、「交流および共同学習」のリーフレットを作成し、ホームページにも掲載した。</li> </ul>	
<p>人権と命とを大切にする教育の実施</p>	<p>○人権と命を大切にする教育を組織的に実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学部において、命について学ぶ機会を実施</li> <li>・児童生徒会での子どもの主体的な活動への支援</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・命に関する授業の実践事例の共有と意見交換:随時</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進計画を見直した。</li> <li>・ホームページに、「いじめ問題に関する相談窓口」を開設した。</li> <li>・スクールカウンセラーによる児童生徒との面談や担任教員との面談を合計 8 回行なった。</li> <li>・児童生徒会では、一人ひとりが活躍できる場面をつくることや、朝のあいさつ運動を行った。</li> <li>・「かけがえのない命を守るために～」のポスターを掲示し、実態に合わせた人権や命を大切にする講話や活動を行った。</li> </ul>	

### 改善課題

- ・コロナ禍での行事の検討を行ない、2年間行なうことができなかった校外学習やプール体験会、居住地校交流などを実施した。引き続き安全で安心して取り組める内容を検討し、プールの回数を増やすことや集会等の対面実施を図っていきたい。
- ・専門性の向上のため、研修部だけではなく、分掌を超えて取り組める内容を検討して行く必要がある。

## (2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>危機管理意識の向上</p>	<p>○防災機能を強化し、非常時における地域や校内での連携・協力体制を整備する。また、感染症予防に対する教職員の意識向上及び対策の充実を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な避難訓練と県地区との情報交換</li> <li>・防災マニュアルの見直し</li> <li>・感染症に係る対策案の見直し</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練の実施回数:3回以上</li> <li>・感染症対策に係る保護者等への周知:随時</li> </ul> <p>○職員会議や学校信頼向上委員会などを活用して、不祥事根絶研修を実施し、全教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を毎学期実施</li> </ul> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期首面談等でのコンプライアンスを話題とした意見交換の実施:随時</li> </ul> <p>○緊急対応および事故の未然防止のための取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・合同避難訓練は実施なし、校内で避難訓練(6月、1月:地震)と起震車体験(11月)を実施した。職員で作成したオリジナル防災動画「大きな地震に備えよう～おかしもの約束」も使用し学習した。</li> <li>・防災やスクールバスのマニュアル見直した。</li> <li>・毎月、不祥事チェックリストを実施し、信頼向上委員会で学部の状況などを出し合った。</li> <li>・感染症対策についてチェックを行ない、保護者に対策案を提示し、行事等についても再検討した。</li> <li>・医バック委員会や緊急対応訓練を年間計画に基づき実施し教員と看護師の動きを確認した。</li> <li>・計画に沿って、緊急対応訓</li> </ul>	<p>◎</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒について情報共有する機会の設定</li> <li>・緊急対応訓練の実施</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医バック委員会の実施(毎月)と緊急対応訓練(全校訓練1回+個々訓練+心肺蘇生・AED講習)の実施による安全体制の確認:随時</li> </ul>	練・AED講習・個人マニュアル対応訓練やマニュアルの見直しを行った。プログラム対応・エピペン研修等を行った。	
情報提供による信頼の構築	○ホームページ等を活用して、積極的に特色・魅力ある教育情報を発信する。 <b>【活動指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信等のホームページへの掲載やコロナ禍における活動に関して報道などへの情報提供</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを閲覧した保護者の割合 60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校通信や本校における新型コロナウイルス感染症対策等や「交流および共同学習」のリーフレットをホームページに掲載した。</li> <li>・閲覧率は37%であった。(12月現在、回答者のみ)</li> </ul>	
働きやすい職場環境づくり	○校内体制や教職員一人ひとりが、業務内容を見直して改善を図ることにより、生き生きと仕事ができる環境づくりを進める。 <b>【活動指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定日に定時に退校した職員の割合 80%以上</li> <li>・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 80%以上</li> <li>・ノー会議デイ・定時退校日(月1日)及び学校閉校日(8月、12月、1月に計4日間)の設定</li> <li>・管理職と教職員間での意思疎通の機会を設定</li> </ul> <b>【成果指標】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間360時間を超える時間外労働者数0人</li> <li>・月45時間を超える時間外労働者延べ人数0人</li> <li>・一人当たりの月平均時間外労働20時間以下</li> <li>・一人当たりの年間休暇取得日数12日以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退校は概ね達成できた。閉校日は4日間設定し、職員会議や委員会など、60分以内で終了できた。</li> <li>・学部会60分以内終了90%(全学部)</li> <li>・過重労働については、「年間360時間」を超える職員は2人、月45時間以上述べ人数は、19人いた。(1月現在)昨年度に比べ、半減しているが、業務内容によって、時期的に増えたこともあった。</li> <li>・1人当たりの年休取得は達成できた。</li> </ul>	◎
<b>改善課題</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーや発作対応に関わる薬や装置の扱いについて、研修会や訓練を実施し対応してきた。これからも学校に求められる対応があるので、校内だけではなく関係機関とも連携をし、対応していきたい。</li> <li>・業務内容によって時期的に時間外労働が増えることがある。周りの職員のサポートや業務や会議の精選に努める必要がある。</li> </ul>			

## 5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児校として、研修をさらに進め、専門性の向上を図るとともに、本校で取り組んだ研修等を他校等に発信して行ってほしい。</li> <li>・ICTの活用を推進し、業務時間の短縮を図って行ってほしい。</li> <li>・災害時等を想定したより具体的なチェックや訓練を実施して行ってほしい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止のために休止していた施設開放等を、再開して行ってほしい。</li> </ul>
---------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部の枠を超えた専門性向上の研修を推進するとともに、チーム研修の還流のみにとどまることなく、他校や研究会等に発信していく。</li> <li>・通学中の災害時を想定した、児童生徒の安全確保や保護者等への引き渡しのマニュアルを徹底するとともに、訓練等を実施していく。</li> <li>・プール学習や居住地校交流、校外学習の本格的な実施に向けて、準備を進めていく。</li> </ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート集約などICTを活用することで集計等にかかる時間が短縮される。ICT研修を引き続き行ない、有効的な活用を図り、過重労働の短縮に努めていく。</li> <li>・一部の教職員だけに負担がいくことがないよう、業務内容の検討、役割分担やサポート体制を引き続き見直していく。</li> <li>・来年度も引き続き、有識者や地域の方々に学校運営に参画していただき、教育活動の充実を図ってきたい。</li> </ul>